

大安寺報

名句・名言に学ぶ

平尾誠二(ラグビー選手)

時間って命の一部なんですよ。今の時間を大事にできない人は、未来の時間もきつと大事にはできない。ここで自分らしく生きることができない人には、次なる道は開けない。

この冬、薬研温泉の周辺の森をスノーシューを履いてガイドの方と共に散策する機会がありました。その際に驚いたのが、枯れて眠っているように見える樹木は冬の間にしっかりと芽を蓄え、春を迎える支度をしている様子です。冬の厳しい寒さに耐えながら、命を燃やしつづけるその姿に大変心打たれました。それに比べ、「冬は動けない期間」ととらえ、命の燃やし惜しみをしていた自分自身の姿のどれだけ恥ずかしかったことか。大自然に学ばせてもらった、貴重な機会でした。

冒頭のことばは、昨年十月に五十三歳という若さで亡くなった平尾誠二さんが、平成十六年に『プロ論』というインタビュー集の中で語ったことばです。

この中で語られている「時間＝命」という言葉は大変重い示唆です。私たちがともすると「時間」を漫然と過ごしがちです。しかし、自身が余命を告げられたり、身近な家族や友人が亡くなったたりといった機会に出逢うことで、時間の有限性と希少性に思い至ります。そもそも時間と命は不可分の関係。命があるからこそ、時間を実感でき、時間があるからこそ、命を享受できます。そのように考えると、時間を無駄にすることは、命を無駄にすることに他ならないのです。

また、私たちは「今の時間」をなおざりにしがちです。それに加え、皆さんは「あの時こうしておけば良かった」と過去についてあれこれと思い悩むことはないでしょうか？しかし、考えてみれば、過去に戻って操作することは不可能です。では、未来についてはどうでしょうか？先回りして自身の望むように未来を操作することも不可能です。そう考えれば、私たちが関与できるのは、「今の時間」だけということになります。「未来について望みを持つべきではない」ということではありません。望む未来を思い描きつつ、今という時間を大切にしながら、出来る努力を重ねていくことが、望ましい

未来を実現することにつながります。さらに、私たちは、しばしば現状に不満を抱き、現実逃避をします。「ここではないどこかに、自分にふさわしい場所がある」と夢想し、その場所からどこかに移動することで、より自分らしく生きられると考えたことはないでしょうか？しかし、与えられた時間を大切に使い、また、与えられたその場でしっかりと命を燃やさなければ、現状に対する不満は永遠に満たされない、という真実を知らねばなりません。

平尾さんはラグビー選手として活躍しただけではなく、現役引退後は後進の指導やスポーツの振興のために力を尽くされました。そのひたむきな生き方の根底には、「時間を命ととらえ、今ここで如何に自分らしく生きるか」という命題がありました。

もうすぐ、命が萌え出する春。私たちはただ、その到来を待つだけでなく、「今、ここ」で出来ることを、共にしっかりと努めて参りたいものです。合掌



ブナの冬芽

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)